

人生には多くの壁が立ちはだかる
壁を超えても次の壁にぶちあたる
しかし、越えられない壁などない
そのことをスポーツで証明した
若きアスリートが御船にはいる
仲間、指導者、家族、地域が
いつもすぐそばで支えていた
今夏、己を信じ、仲間と共に
夢舞台に挑んだアスリート
わが町の力をお伝えしたい

- Part 1 小坂ジュニアソフトボールクラブ 3号
- Part 2 御船中学校軟式テニスクラブ 4号
- Part 3 御船城山少年野球クラブ 5号
- Part 4 少林寺拳法御船道院 6号

限界に挑んだ夏

みふねのアスリート

Photo / 御船城山少年野球クラブの福永誠周選手は投手陣の一角を担う本格派右腕



1



2



3



4

Close_up

みふね地蔵祭り

伝統の夜祭りに 恐竜ねぶた登場

みふね地蔵祭りが8月23日と24日の2日間、本町通りで開かれました。

祭りは江戸時代中頃、子どもたちの健康と商売繁盛を祈って始まったと伝わる夏の風物詩です。通りには主役のお地蔵さまが奉られて、趣向を凝らした造り物が見物人の目を楽しませました。メイン会場の商工会館前では、夜市、ソーメン流し、キッズダンスなどがあり、行き交う人の波で混雑しました。

中でも、大きな脚光を浴びたのが「恐竜ねぶた」。恐竜の郷みふねプロジェクト（竹田津純会長）が制作2カ月を費やして完成させ、お披露目した

力作です。突如現れた恐竜ねぶたの幻想的なあかりと青森ねぶた祭の曲が響き渡ると、見物客はしばし足を止めて見入っていました。

見物客の川崎美智子さん（高木）は、「ねぶたが御船で見れるなんて思いがけないプレゼント。感激です」と顔をほころばせました。

ねぶた制作発起人の河地和一さん（木倉）は、「ミフネリュウのねぶたを披露できて心地よかった。祭りに定着するよう来年は2号機を制作したい」と力を込めました。恐竜ねぶたは、11月3日までカルチャーセンターに展示される予定です。



5



6



7

1_恐竜とナマズを組み合わせた造り物で金賞に輝いた1丁目長栄組 / 2_通りのいたる所に出座した主役のお地蔵さま / 3_御船高校生の似顔絵コーナーでかわいいモデルの少女 / 4_長命地蔵組が制作した「大仏さま」を見つめる少年 / 5_子どもたちに人気のそうめん流し / 6_射的でお目当ての景品に狙いを定める少年 / 7_見物人の視線を釘づけにして練り歩く「恐竜ねぶた」（縦・高さ3.5m、横2.5m、重さ100kg） / 8_恐竜ねぶたと同じポーズで微笑む少年 / 9_多くの人でにぎわった本町通り、昔から変わらない親子連れの光景が広がっていた



8



9

